

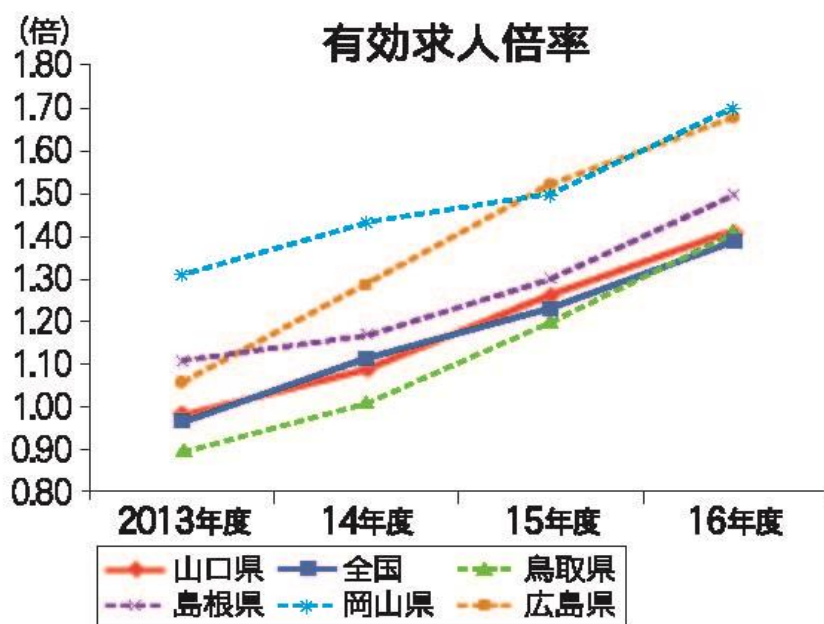
地域の特徴や課題を把握するとき、みなさんはどのような方法を用いますか？  
 統計データを整理して、表やグラフを作成することは、特徴を捉える基本的な方法です。通信環境やIT技術の進化に伴い、最近ではインターネットからダウンロードした統計データを、そのまま表計算ソフトに取り込み、分析処理を行うことも多いのではないのでしょうか。

今回は、統計から地域の特徴を捉える一例として、2つの視点をご紹介します。サンプルデータは、新聞でもよく目にする、有効求人倍率を用います。有効求人倍率は、雇用情勢を示す重要な指標で、様々な政策判断などにも利用されています。

2つの視点とは、都道府県間の比較と、時系列比較です。まずは都道府県間の比較です。有効求人倍率（2016年度平均値）が高い都道府県を見ると、東京都、福井県、岐阜県、岡山県、広島県の順となっています。あれ？有効求人倍率が高いのは、人口が多い地域と思っていませんでしたか。ちょっと専門的になりますが、人口と有効求人倍率の関係を計算してみると、ほとんど関係がないという結果になります。そうした中、山口県の全国順位を見ると、18位と、全国で真ん中より少し上の状況にあります。

次に、山口県の有効求人倍率を時系列方向に見てみます。13年度から16年度までの4か年の状況は、グラフのとおり年々上昇しています。ここで、全国値の動きをみると、全国値も同様に上昇しており、我が国全体の有効求人倍率が上昇する中で、山口県も同様の動きをしていて、近年、全国的にも山口県も雇用情勢が改善していることが読み取れます。

今回は、有効求人倍率を用いましたが、他の統計データでも、他県との比較や、時系列比較をすることで、同様に山口県の特徴を読み取ることができます。統計データを用いて分析を行う時の、一つの参考としてみてください。



出典：厚生労働省「労働市場年報」